

チーム学校としての不登校支援について

不登校生徒の状況

本校では、不登校の生徒が1年生は1人だが、2～3年生は各学級4人程度いる。不登校になる理由は様々だが、学力的な要因よりも精神的要因や家庭的要因による生徒が多い。完全に家から出られない状況の生徒も一定数いるが、どの機関にもつながっていない生徒は0人である。

具体的な取組

○チーム学校としての取組

週1度、教育相談部会を設定している。各学年の担当と管理職、SC、SSW、特別支援教室の教員が参加し、不登校生徒の様子や新規で休みが多くなってきた生徒などの情報共有を行っている。また、教育相談部会で話された内容については、学年会等を通じて全体に共有し、支援員も含むチーム学校として支援している。

○別室指導

教室に入りづらい生徒が登校する別室を複数用意している。1日1時間、支援員と一緒に学習をしたり、話をしたりする別室Aの他に、家から出ることを第一の目標とし、自由に登校できる別室Bを今年度から新設している。別室Bでは安心して登校できるような仕組みづくりを心がけている。



○未然に防ぐ取組

毎月、いじめアンケートを実施しているほか、4月には担任との全員面談、新1年生にはSCとの全員面談、長期休み前後には「心と体のアンケート」を実施している。また、希望者を対象とした教員面談を行うなど、生徒のSOSを早期に気付き、対応するための活動を多く取り入れている。

○ICTの活用

昨年度から、タブレットをより一層活用する取組を行っている。学校に足を運ぶことが難しい生徒や、家庭と連絡が取りづらい生徒にタブレットを貸し出し、Web会議システムを活用してコミュニケーションをとっている。ICTの活用により登校できない生徒とも密に連絡を取ることができている。

成果

学校内外の機関等における相談・指導等を受けていない生徒は0人である。多くの生徒が別室に登校することができている。別室に登校できていない生徒も、関係機関とつながりをもつことができている。

課題

家庭との連絡が取りにくい生徒がいるため、他機関と連携することに努めている。また、学校に登校したい気持ちはありながらも実際に登校することが難しい生徒への更なる対応を検討している。